

上手なレポートの作り方

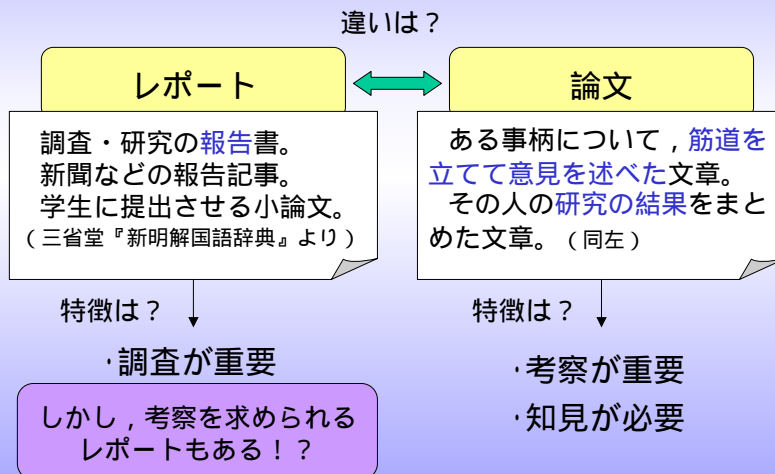
図書館 工学分館

米沢 誠

yonezawa@library.tohoku.ac.jp

1

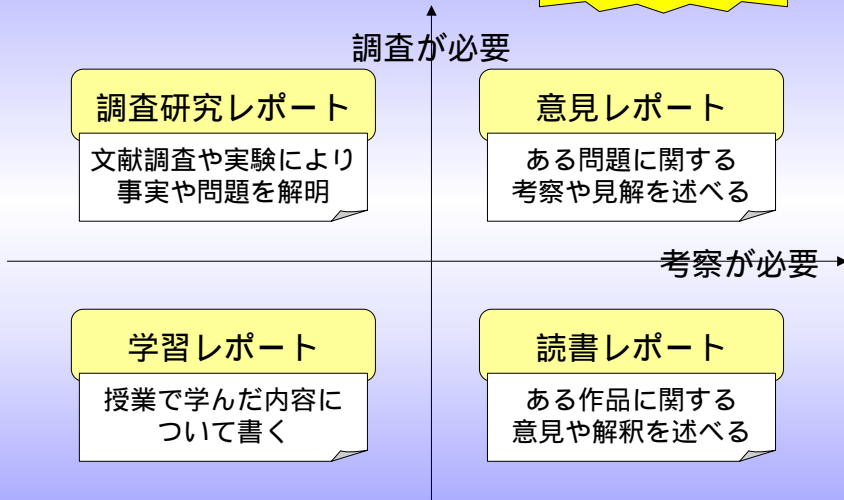
1. レポートと論文の違い



2

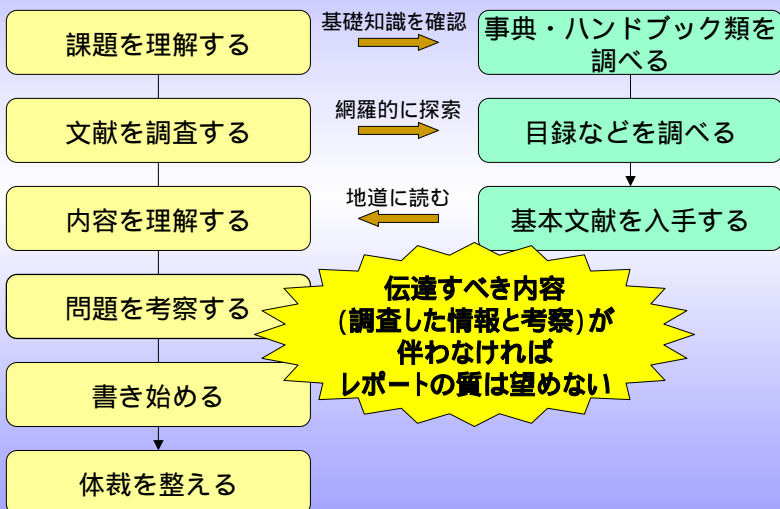
2. レポートの種類

レポート作成は論文執筆の訓練



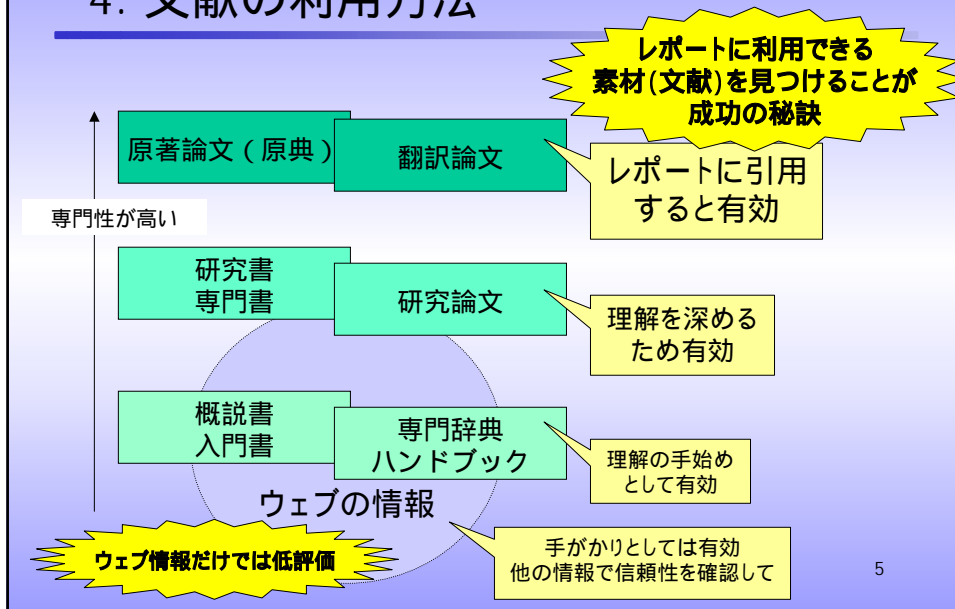
3

3. レポート作成の手順

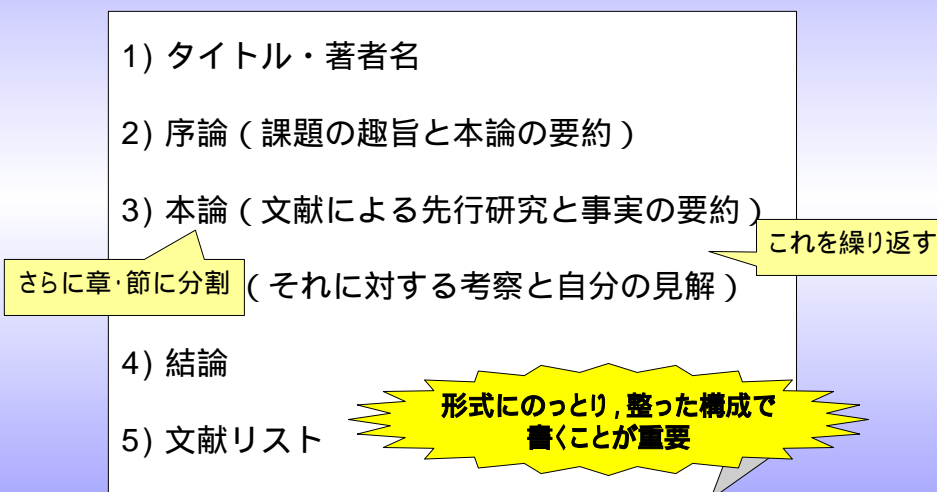


4

4. 文献の利用方法



5. レポートの基本構成



6. 本論のアウトラインから始める

(目的)

- ・図書館展示の意義の見直し

序論からは書きはじめない

(調査結果を示し、論ずる内容の箇条書き)

- ・資料の活用を促進する**啓蒙活動**
- ・図書館の存在意義を示す**広報活動**
- ・図書館員の**人材育成活動**

後に書く「序論」の
構成要素となる

まず、全体の構成を整理するのがコツ

7

7. 本論の書き方の例 (1)

意見は主観的
文章で書く

資料解説は、正確でありかつ簡潔であることが望ましい。情報量が過剰な解説は、すぐに読み飛ばされる危険性が高いからである。具体的な分量としては、日本語で100文字から200文字程度の文章とするべきといわれている。国立博物館では通常199文字以内、常設展示の場合は119字以内に収めることを基本にしている。³⁾

事実を客観的
文章で書く

自他を区別して
明晰に書く

8

7. 本論の書き方の例 (2)

自分の見解は
主観的に

展示から啓発された利用者が、各自なりの学習・研究に向かうような展示内容が望ましいと考える。早稲田大学の松下氏は、自身の経験から生まれた実感を、次のように述べている。

「やはりよい資料、なまの資料を目にすれば人は感動するし、また、その感動が、若い人々にさまざまなことを考えはじめるきっかけを与えないとも限らないのである。」¹⁾

他者の見解を
効果的に援用する

他者の見解は
引用で示す

9

8. 本論のチェックポイント (1) 体裁

- ・ 主張する内容毎に、見出しと番号付けで整理
- ・ 見出し毎に一行空けで見やすく
- ・ 1つの主題（主張）毎に段落を区切っているか
- ・ 段落にはインデント（1文字下げ）
- ・ 英数字は1バイト（半角）で統一
- ・ 数値はカンマ区切りで

整った体裁は
記述内容を明確化する！

10

8. 本論のチェックポイント (2) 文章

- ・話し言葉は使わない
- ・主語と述語を明確に（主語なし文，述語なし文＝体言止め，主語と述語のねじれ，長すぎる文）
- ・なるべく短い文に分割
- ・複文の分割（「...であり」「...だが」での連結禁止）
- ・主語と述語，修飾語と非修飾語の近接

簡明な文章は
記述内容を明確化する！

11

8. 本論のチェックポイント (3) 内容

- ・説明根拠（データや例証，引用）が不十分でないか
- ・説明根拠を明示しているか
- ・冗長な説明で，論旨があいまいとなっていないか
- ・積極的に主張する文章となっているか
- ・「熟達した書き手ほど，読み手としての立場から文章を産出する」

推敲を行い
記述内容を高度化する！

12

9. 文献リストの書き方例

1),2) 松下眞也．展覧会の企画と運営：早稲田大学
図書館展示部会の経験から．早稲田大学図書館紀要．
No.50，p.25-70（2003）

雑誌論文・記事

3) 木村浩．情報デザイン入門（ちくま新書370）．
筑摩書房．2002，p.145

図書（単行書）

4) 東北大学和算ポータル．<<http://www2.library.tohoku.ac.jp/wasan/>>

ウェブサイト

分野毎にスタイルが違うので、
見本を見つけて覚える

13

10. 序論の書き方の例

意図が伝わる上手な序論を

大学図書館が主体となって展示を行う機会が増えてきているが、博物館などが行う展示活動に比べて、大学や図書館内で事業としての意義付けが確立されていない。そのため、多くの図書館では予算的な措置も十分ではなく、余儀なく低予算での展示を行っている。

何が問題なのか（問題意識）

本稿の前半では、図書館展示は資料の活用を促進するための啓蒙活動であり、図書館あるいは大学の存在意義を示す積極的な広報活動であるとの観点から、図書館展示の意義を見直す。また、図書館員の人材を育成する総合的な活動であるという観点からも評価したい。

どのような観点で

何を論じるのか

14

11. 実験レポート作成のコツ

1) タイトル・著者名

見本を写すのではなく、
自分の文章で書くことが重要

2) 序論（実験の目的と方針）

複数の実験が含まれる
場合、節を分けて書く

3) 本論（実験方法と実験結果）

（考察）

図表には付番し、説明
的なタイトルを付ける

- ・結果の信頼性や実験方法の改善点などの評価
- ・結果から分った、当初の目的以外の新しい事実
- ・さらにどのような実験への展開が図れるかの検討 など

実験時の観察と関連文献の調査で、
充実させることが可能

15

12. 文章の改善例 (1)

この工場は，特殊タイヤの生産を特徴とする中規模の工場
ですが，多品種の生産に対応できる構造とか機能を備えたもの
として著名と言われています。

話し言葉ではなく、「である」調

本工場は，特殊タイヤの生産を特徴とする中規模の工場
であり，多品種の生産に対応できる構造及び機能を備えたもの
として著名と言われている。

16

12. 文章の改善例 (2)

世界の人口の五分の一を占める中国が急激な経済成長を遂げているため、この国のエネルギー消費量は急激に増大し、世界的にもこれからますますエネルギー需要は増すのでエネルギー不足問題は深刻である。

一文章 = 一主語で、短めに

世界の人口の五分の一を占める中国が急激な経済成長を遂げているため、この国のエネルギー消費量は急激に増大している。世界的に見ても、これからますますエネルギー需要は増すので、エネルギー不足問題は深刻である。

複文よりは単文で
一文の長さの目安は45～55文字程度

17

12. 文章の改善例 (3)

この方法で精製した試料は十分純粋であり、測定に用いた。

省略主語と述語との一致

この方法で精製した試料は十分純粋であるので、（我々は）これを測定に用いた。

文の主語を意識して明解に
複文の場合、特に注意すること

18

12. 文章の改善例 (4)

物質Aは近い将来，物質Bから非常に良い収率で合成されると考えられる。

あいまいな表現を避ける

明解に数値を記述する

温度制御の改善により，物質Aは，物質Bから70%以上の高収率で合成されると予測できる。

判断を読者にまかせる意見の記述ではなく，
明確に能動態で書く

19

13. 参考文献

- ・小笠原喜康，大学生のためのレポート・論文術，講談社現代新書，2002
- ・木下是雄，レポートの組み立て方，ちくま学芸文庫，1994
- ・木下是雄，理科系の作文技術，中公新書，1981
- ・本多勝一，日本語の作文技術，朝日文庫，1982
- ・小川雅彌ほか，化学のレポートと論文の書き方．改訂版，化学同人，1999

20